

土木学会 コンクリート委員会 規準関連小委員会
平成23年度 第1回委員会議事録（案）

日時：平成23年4月26日（火）14：00～17：00

場所：スクワール麹町5F 寿

出席者：鎌田委員長，上野幹事長，田中，片平，加藤，坂本，椿，野島，野村，丸岡，原田，堀越，
三谷，森，山口，横関，濱田，川西（記録）（敬称略）

配布資料：

- 1-0 平成23年度第1回規準関連小委員会議事次第（案）
 - 1-1 平成22年度第3回規準関連小委員会議事録（案）
 - 1-2 規準関連小委員会委員構成（案）（平成23年度）
 - 1-3 2010年制定示方書規準編「土木学会規準および関連規準」正誤表
 - 1-4-1 規準関連小委員会 電子化WG資料ーアンケート結果ー
 - 1-4-2 日比野先生の（電子化に関する）メール文章
 - 1-5-1 セメント・水・骨材・混和材料WG関連資料
 - 1-5-2 鋼材・補強材WG関連資料
 - 1-6 皆川先生の（印刷原稿提出形態に関する）メール文章
 - 1-7 2010年制定示方書規準編改訂の概要（コンクリート工学掲載資料）
- 回覧資料 電磁波レーダ法と電磁誘導法について

議事：

1. 委員長挨拶

鎌田委員長により，震災で被災した方への御見舞いと，2012年版発刊に向けて引き続き精力的な活動を要請したい旨，挨拶があった。

2. 前回議事録（案）の確認（配布資料1-1）

森委員より前回議事録（案）の内容説明があった。鎌田委員長より以下の修正指示があった。それ以外の内容については承認された。

- ・3頁：「示方書共通編の次回改訂は」を「示方書の全体の次回改訂は」に修正

3. 委員構成について（配布資料1-2）

新規に交代した清水建設（株）田中委員，宇都宮大学丸岡委員よりそれぞれ挨拶があった。また，鎌田委員長より3/15の常任委員会にて委員交代について承認された旨話があった。また，委員構成について，以下の指摘があった。

- ・濱田主査の役職名「担当幹事」を削除する。
- ・電子化WGとフレッシュコンクリートWGに丸岡委員を追加する。
- ・西田委員が（独）港湾空港技術研究所に転職されたため，今後，委員会の参加の可否や（財）電力中央研究所の後任者について本人に確認する。

4. 示方書規準編の正誤表について（配布資料1-3）

上野幹事長より2010年制定示方書規準編の土木学会規準および関連規準の正誤表について説明があった。鎌田委員長より、引続き各WGで詳細に確認してほしい旨依頼があった。

5. 電子化WGの活動について（配布資料1-4-1, 1-4-2）

○電子化について

鎌田委員長より、アンケート結果について説明があった。現段階では印刷版で進める方向で考えるが、賛否両方の意見があり、引続き議論をしていく旨話があった。本委員会では以下の議論があった。

- ・JIS規格編は、違法コピーの防止が困難であることから電子化は難しいとの回答があった。
- ・JIS規格編が印刷版で土木学会規準および関連規準編が電子版では調和がとれないので、電子化するのであれば、両方同時に行いたい。
- ・電子化することで保管場所が節約でき、検索、印刷が容易になる。
- ・印刷版の方が閲覧の利便性が高い。

○スリム化について

電子化WGは、紙媒体でのスリム化について、土木学会出版事業課の富田氏に相談し、検討を行い、具体案を提案する。例えば、紙の質を少し下げることや、JIS規格編は、2ページを1ページに縮小するなど物理的にページ数を削減する方向で検討を行う。

6. 各WGからの報告

○セメント・水・骨材・混和材料WG（配布資料1-5-1）

片平主査より、正誤表への追加事項1件と、現段階で2012年版での土木学会規準について、新規提案がない旨説明があった。

○鋼材、補強材WG（配布資料1-5-2, 回覧資料）

椿主査よりエポキシ樹脂塗装鉄筋関連の規準を樹脂被覆鉄筋に拡張するかどうか検討中であることとPC鋼材関連の規準類を掲載する方向で審議を行っている旨説明があった。

川西委員より、電磁波レーダ法と電磁誘導法について日本非破壊検査協会規格（NDIS3429, 3430）を関連規準として追加したい旨説明があった。次回委員会で資料を提出し、妥当性の審議を行う。

○フレッシュコンクリートWG

坂本委員より、現段階でWG内の結論が出ていないが、高流動指針やポンプ指針の改訂に向けて議論している中で、試験方法に関する内容のものがあれば、提案する方向で考えている旨報告があった。

○硬化コンクリートWG

加藤委員より、現段階では大きな動きがない旨報告があった。

○製品、施工機械等WG

原田主査より、新規追加がない旨報告があった。

○補修、注入材等WG

濱田主査より、表面含浸材は次回制定には間に合わないので、新規追加がない旨報告があった。

○その他+αの改善策について

鎌田委員長より、余力の中で次回改訂に向けての改善策についてさらに議論して行きたい旨依頼があった。本委員会で以下の議論があった。

- ・関連規準に英文リストがあれば提案する。
- ・HP、講習会、JCI会誌などで情報は発信しているが、規準の変遷資料を充実させる。
- ・例えば、NDIS3418の目視試験方法のように、解説が掲載されないと試験方法として理解できないものがある。各WGでは、特に関連規準について、解説掲載の可否を検討する。

7. 修正作業WGの活動について（配布資料1-6）

鎌田委員長より、テフ版とWord版でそれぞれ一長一短あるので、最終的な結論は保留とし、次回委員会で方向性を決定する旨説明があった。修正作業WGは、テフ版で課題を解決するための対応策を提案する。本委員会の中で以下のコメントがあった。

（上野幹事長）

- ・テフ版は、最終加工を印刷業者が行うため、最終版の原稿が手元に残らない。Word版であれば、最終版を手元に残すことができる。何か問題が生じた場合に、Word版で印刷できるようにしておきたい。
- ・テフ版への変換の際に人為的な作業が入るため、印刷業者から上がってきた校正版が、整合性が取れているかどうかを再確認する必要がある。
- ・逆に、印刷業者から最終版のテフのファイルを手に入れ、これを直接編集するという方法もある。

（樫主査）

- ・テフ版は、最終的に内容の確認だけでよく、フォーマットを気にする必要がない点が利点である。一方でWord版は、フォーマットが統一される保証がないので、細部までフォーマットを統一する必要があり、大変な労力がかかる。他の示方書と同様にフォーマットを気にしないのであれば、Word版に移行してもよい。
- ・現状は、最終赤書き版の修正内容を修正していないが、Word版の修正をきちんと行うことで、最終版に近づけることができる。

8. 規準編の全体構成について

全体のフレームワークについては、示方書群全体に関わる話なので、まず、示方書改訂小委員会等に具体案を示し感触を伺ってみるのが良いのではないかと。本件については、規準関連小委員会で細かな話をする前に、示方書全体の戦略を確認してみる必要があるのではないかと。

9. その他

- ・片平主査より、土木学会規準の中で使用頻度の低い規格は省略できないか提案があったが、現状では土木学会規準は他に規格を参照する手段がないので、原則全て掲載するようにしており、明確な理由がない限りは省略しない方向とする。
- ・上野幹事長より、2010年制定示方書の改訂の概要が日本コンクリート工学会の会誌に掲載された旨報告があった（配布資料1-7）。
- ・主査が欠席しているWGは、出席者がWG主査に情報を伝達する。WG主査が欠席の場合、出席しているWG委員に主査代理をお願いすることを、委員会全体に再度確認する。
- ・次回の委員会までに、各WGで目次案（土木学会規準、関連規準、JIS規格集）を提出する。各目次案は、新旧対応表の形で作成する。現段階で最も新しい目次は、規準関連小委員会のHPより確認する（JIS規格編は、年号が更新されている可能性有り）。

- ・次回の委員会は、7月末から8月初旬とし、メールにて日程調整の上決定する。
- ・今後のスケジュール案
 - ①7月末～8月上旬に第2回委員会，11月頃に第3回委員会を開催
 - ②年内に委員会としての目次案を決定
 - ③2012年の年明け早々に，常任委員会に目次案を提出する。